

日本大学危機管理学部
危機管理学研究所
令和4年度 公開講座

サンデルの正義論を読む
—自由・公共性・危機管理—

上野山 晃弘（危機管理学部専任講師）



サンデルの正義論を読む

• 本日の内容

- サンデルの紹介
- 導入：三つの正義論
- ①功利主義批判
- ②リベラリズム批判
- ③コミュニタリアニズム（共通善に基づく政治）
 - （1）公共的意識（美德・共通善）の育成
 - （2）経済至上主義からの脱却
 - （3）格差の是正による道徳性の回復
 - （4）対話による相互理解の形成
- まとめ
- 議論①原発の再稼働を認めるべきか？
- 議論②誰が決定すべきか—政府か、地方か？

3

サンデルの正義論を読む

• 概要

- 現代正義論を代表する思想家の一人であるサンデルの正義論を通じて、コミュニティ（地域社会～国家～国際社会）における危機管理の諸課題について考察します。
- この講座では、とくに哲学研究の観点から、医療や教育、貧困問題、異文化理解の諸課題を取り上げ、コミュニティにおける自由・公共性・危機管理の意義について、皆様とともに考えます。

• 自己紹介

- 上野山 晃弘（日本大学危機管理学部専任講師）
- 専門：哲学・応用倫理学（環境倫理・生命倫理）
- 担当科目：
「哲学」「宗教学」「論理学」（総合科目）
「比較宗教・文化論」（専門科目）



サンデルの正義論を読む



• マイケル・サンデル (Michael J. Sandel)

- 1953年生まれ。ハーバード大学教授。専門は政治哲学。
- 1980年代のリベラル・コミュニタリアン論争で脚光を浴び、コミュニタリアニズムの代表的論者として知られる。
- 2010年「ハーバード白熱教室」（NHK、全12回）
- 2022年「マイケル・サンデルの白熱教室2022」（NHK、全12回）

• 主要著作

- 『リベラリズムと正義の限界』勁草書房、2009年
- 『これからの「正義」の話しよう』早川書房、2011年（『正義』）
- 『民主政の不満（上・下）』勁草書房、2010-11年
- 『公共哲学』筑摩書房、2011年
- 『5000人の白熱教室（DVDブック）』早川書房、2012年 その他多数

• 参考文献

- 小林正弥『サンデルの政治哲学』平凡社、2010年

画像出典：Universal Music Japan
『NHK DVD ハーバード白熱教室6』（2010年）
<https://www.universal-music.co.jp/hakunetsu/products/p008-25013/>

4

サンデルの正義論

導入：三つの正義論

- 「第一の考え方〔功利主義〕では、正義は効用や福利を最大化すること—最大多数の最大幸福—を意味する。
- 第二の考え方〔リベラリズム〕では、正義は選択の自由の尊重を意味する—自由市場で人びとが行う現実の選択（リベタリアンの見解）であれ、平等な原初状態において人びとが行うはずの仮説的選択（リベラルな平等主義者の見解）であれ。
- 第三の考え方〔コミュニタリアニズム〕では、正義には美徳を涵養することと共通善について論理的に考えることが含まれる。〔…〕私が支持する見解は第三の考え方に属している」（『正義』406頁）

- ➡ ①功利主義（量的功利主義）：最大多数の最大幸福
- ➡ ②リベラリズム（自由主義）：個人の自由（選択の自由）を尊重
- ➡ ③コミュニタリアニズム（共通善に基づく政治）：コミュニティにおける美徳と共通善を尊重（サンデル自身の立場）

5

サンデルの正義論

②リベラリズム批判（個人主義批判）

- 「自由に基づく理論は、〔…〕権利を真剣に受け止め、正義は単なる計算以上のものだ」と強く主張する。自由に基づく諸理論は、〔…〕ある特定の権利が基盤となり、尊重されるべきだという点では一致する。
- だが、尊重に値する権利を選び出すことはせず、人びとの嗜好があるがままに受け入れる。われわれが社会生活にもちこむ嗜好や欲求について、疑問や異議を差し挟むよう求めることはない。自由に基づくそうした理論によれば、われわれの追求する目的の道徳的価値も、われわれが送る生活の意味や意義も、われわれが共有する共通の生の質や特性も、すべては正義の領域を超えたところにあるのだ」（『正義』406-407頁）

- ➡ リベラリズム（自由主義）は、自由（権利）を原理として尊重するが、形式的な自由だけではたんなる自由放任や個人主義に陥ってしまい、公共的な生の意味（美徳や共通善）が失われてしまう

7

サンデルの正義論

①功利主義批判（経済至上主義への批判）

- 「功利主義的な考え方には欠点が二つある。一つ目は、正義と権利を原理ではなく計算の対象としていることだ。二つ目は、人間のあらゆる善をたった一つの統一した価値基準に当てはめ〔…〕個々の質的な違いを考慮しないことだ」（『正義』406頁）
- 参考：ロバート・F・ケネディによる演説（1968年）
「アメリカのGNP（国民総生産）はいまや年間8000億ドルを超えています。だが、そのGNPの内訳には、大気汚染、タバコの広告、高速道路から多数の遺体を撤去するための救急車も含まれています。〔…〕ナバーム弾、核弾頭、都市の暴動で警察が出動させる装甲車も含まれています。〔…〕それなのに、GNPには子どもの健康、教育の質、遊びの喜びの向上は関係しません。詩の美しさ、市民の論争の知性、公務員の品位は含まれていません。われわれの機知も勇気も、知恵も学識も、思いやりも国への献身も、評価されません。要するに、GNPが評価するのは、生き甲斐のある人生をつくるもの以外のすべてです」（『正義』409-410頁）

- ➡ 経済至上主義と結びついた功利主義では、経済的価値に換算されない価値（美徳や共通善）が適切に評価されない

6

サンデルの正義論

サンデル自身の考え

- 「私には、これは間違っていると考える。正義にかなう社会は、〔功利主義のように〕ただ効用を最大化したり〔リベラリズムのように〕選択の自由を保証したりするだけでは、達成できない。正義にかなう社会を達成するためには、善き生の意味をわれわれがともに考え、避けられない不一致を受け入れられる公共の文化をつくりださなくてはいけない。
- 所得、権力、機会などの分配の仕方を、それ一つですべて正当化できるような原理あるいは手続きを、つい探したくなるものだ。そのような原理を発見できれば、善き生をめぐる議論で必ず生じる混乱や争いを避けられるだろう。だが、そうした議論を避けるのは不可能だ。〔…〕正義の問題は、名誉や美徳、誇りや承認について対立するさまざまな概念と密接に関係している」（『正義』407-408頁）

- ➡ 「善なき正義」ではなく、「善き生の意味」（美徳や共通善）について議論することが重要

8

③ コミュニタリアニズム（共通善に基づく政治）

（1）公共的意識（美德・共通善）の育成

- 「正義にかなう社会には強いコミュニティ意識が求められるとすれば、全体への配慮、共通善への献身を市民のうちに育てる方法を見つけなければならない。公共の生における市民の姿勢と性向、いわゆる「心の習慣」に無頓着ではいけない。〔…〕
- 伝統的に、公立学校は公民教育の場だった。〔…〕ここで私が言っているのは、市民道徳を直截に教えることではなく、知らず知らずのうちに行われることの多い実践的な公民教育のことだ。そういう教育は、青少年が異なった経済的階級、宗教的背景、民族コミュニティから同じ教育機関に集まったときに生まれる。〔…〕
- これほど巨大で多様な民主的社会がどうすれば正義にかなう社会に必要な連帯と相互責任の意識を育てられるかは、深刻な問題だ」（『正義』411-412頁）

➡ 個人主義や経済格差の拡大によりコミュニティの崩壊が深刻化する現代社会の中で、公共的意識（美德・共通善）を育成することが必要

9

③ コミュニタリアニズム（共通善に基づく政治）

（3）格差の是正による道徳性の回復

- 「アメリカ国内ではこの数十年で貧富の差が大きくなり、一九三〇年代以来最大と言える水準にまで広がった。〔…〕功利や合意に及ぼす影響とはまったく別に、不平等は市民道徳をむしろむしばむそれがある。市場を愛してやまない保守派と、再分配に執心するリベラル派は、この損失を見過ごしている。〔…〕
- 共通善に基づく政治が主要な目標とするものの一つは、公民的生活基盤の再構築だ。〔…〕富者も貧者も同じように子供を通わせたい公立学校、〔…〕信頼ある交通手段、公立の病院、運動場、公園、レクリエーション・センター、図書館、博物館や美術館。〔…〕民主的市民生活を共有する共通の場に引き寄せることができるような基盤である」（『正義』414-417頁）

➡ 経済的格差の拡大は、貧困層と富裕層とを分断し、道徳的腐敗（憎悪と軽蔑の悪循環）を生み出す。公共的な生活基盤の再生により、市民相互の間の道徳性を回復させることが必要。

11

③ コミュニタリアニズム（共通善に基づく政治）

（2）経済至上主義からの脱却

- 「現代の最も驚くべき傾向に数えられるのが、市場の拡大と、以前は市場以外の基準に従っていた生活領域における市場指向の論法の拡大だ。
- 〔…〕そうした問題で問われるのは、効用や合意だけではない。重要な社会的慣行—兵役、出産、教育と学習、犯罪者への懲罰、新しい国民の受け入れなど—の正しい評価法も問われる。社会的慣行を市場にゆだねると、その慣行を定義する基準の崩壊や低下を招きかねない。そのため、市場以外の基準のうち、どれを市場の侵入から守るべきかを問わなくてはならない。
- それには、善の価値を判断する正しい方法について、対立するさまざまな考え方を公に論じることが必要だ。〔…〕社会制度を律する基準が市場によって変えられるのを望まないならば、われわれは市場の道徳的限界について公に論じる必要がある」（『正義』413-414頁）

➡ すべてを経済的利益に換算すべきではない。医療や教育など、公共的な生活基盤として尊重すべき共通善について議論することが必要。

10

③ コミュニタリアニズム（共通善に基づく政治）

（4）対話による相互理解の形成

- 「この数十年でわれわれは、同胞の道徳的・宗教的信念を尊重するということは、（少なくとも政治的目的に関係する場合）それらを無視し、それらを邪魔せずに、それらに一可能なぎり—がかかわらずに公共の生を営むことだと思いつくようになった〔善に対する正の優位〕。
- だが、そうした回避の姿勢からは、偽りの敵意が生まれかねない。偽りの敵意は、現実には道徳的不一致の回避ではなく抑圧を意味することが多い。そこから反発と反感が生じかねないし、公共の言説の貧困化を招くおそれもある。〔…〕
- われわれは、同胞が公共生活にもちこむ道徳的・宗教的信念を避けるのではなく、もっと直接的にそれらに注意を向けるべきだ——ときには反論し、論争し、ときには耳を傾け、そこから学びながら」（『正義』418頁）

➡ 議論を避けることにより相互の無理解や偏見が生み出されてきた。共通善について対話し、相互理解を深めることが重要（異文化理解）

12

まとめ

サンデルの正義論

共通善に基づく政治

形式的な自由だけではなく、実質的な善（価値観）について議論する

共通善と美德

コミュニティ（地域社会～国家～国際社会）における共通善を探究し、美德を涵養することを重視する

功利主義や自由主義が招いたリスク（行き過ぎた経済至上主義や個人主義によるコミュニティの崩壊）を抑制し、公共的な精神や生活基盤の再生をめざす

価値観（善の構想）が異なる他者を排除するのではなく、対話を通じて相互理解を深めることによって公共的な生の意味を共に探究する（寛容な道徳性の再生）

サンデルに対する批判と応答

Q1. 共同体を重視しすぎると、個人の自由の抑圧や全体主義を招く危険があるのではないか（自由主義からの批判）

A1. 特定の時代や共同体で支配的な価値観（多数決主義）を強制するのではなく、共通善（共有できる目的や価値観）を対話によって共に探究することが重要

Q2. 善（価値観）について議論するといっても、結局は価値観相互の争いを招くだけであり、政治は中立を守るべきではないか（自由主義からの批判）

A2. 善について議論しないという考え方が、他者への無知や無関心、誤解や偏見を生み、対立を激化させてきた。対話の中でこそ、相互理解の可能性が生まれる

13

議論①原発の再稼働を認めるべきか？

・認めるべきではない（反対派の意見）

- 地震が再発するリスクを考えれば、原発の安全性が問われる。今回の事故から考えても、国民から再稼働の合意を得ることはできない。
- 火力発電やその他の代替案を十分に検討すべき。
- 節電技術の開発を進めるべき。また、工夫すれば節電できる余地はある。
- 先進国では過剰に電力を消費しすぎている。本当に電気が必要なところに電力を分配すべき。
- 理想的には、原発に頼るべきではない。

参照：サンデル『5000人の白熱教室』63-76頁 15

議論①原発の再稼働を認めるべきか？

・認めるべき（賛成派の意見）

- 現実には電力不足。工場経営などで犠牲が出ている。
- 何ごとにも不確実さはある。地震のリスクに対する不安だけで、反対するわけにはいかない。
- 原発を廃止すれば、中東のエネルギー情勢等に依存することになってしまう。国内のエネルギー自給率を上げるために原発は必要。
- 不安定な自然エネルギー（太陽光発電や風力発電等）では、経済大国である日本の電力をまかなうことはできない。
- 現実的には、原発に頼らざるをえない。

参照：サンデル『5000人の白熱教室』63-76頁 14

議論②誰が決定すべきか—政府か、地方か？

・政府が決定すべき

- すべての人や自治体の合意を得ることはできない。地方には意見を表明する権利はあるが、最終的には中央の政府が説明責任を果たした上で決定すべき。

・地方が決定すべき

- 大都市に電力を供給しているのは地方。その地域の権利を配慮すべき。
- 事故の被害を受けるのも、助成金の恩恵を受けるのも地方。利害の当事者である地方自治体が決定すべき。

・関連する意見

- 再稼働の危険を保障する一つの方法として助成金があるが、原発事故の危険性をお金と交換することはできない。

参照：サンデル『5000人の白熱教室』63-76頁 16

本日のワーク

・議論①②に示された意見の中で、とくに重要だと思う意見とその理由について考えてください。また、議論①②には示されていない論点として重要なものを挙げて考察してください。

・例)

- ・将来世代への責任（事故処理の負担、放射性廃棄物の保管・処理方法等）
- ・環境正義（大都市と地方との間の経済的格差、事故時の被害集中等）
- ・戦争やテロリズムの標的となるリスク等
 - ・参考文献：吉永明弘・寺本剛（編）『環境倫理学』（昭和堂、2020年）、とくに「第7章 世代間倫理（寺本剛）」「第8章 環境正義（神沼尚子）」を参照

➡ 上記の考察結果について、身近な人と意見交換を行い、ご自身の考察をさらに発展させてください。

17

危機管理学研究所

https://www.nihon-u.ac.jp/risk_management/research/bulletin/

・本研究所の事業では、新しい学問領域である「危機管理学」を深化させるため、研究所員の研究成果を中心に、2017年3月に創刊された機関誌『危機管理学研究』に掲載するとともに、シンポジウムの開催などを通じて、幅広い層の方々に、危機管理の重要性を伝え続けることにしています。



ご視聴ありがとうございました
今後開催されるシンポジウムや公開講座、
オープンキャンパスや三茶祭等にもぜひご参加ください

18